

守口市立さくら小学校

学校中が木に包まれた学びの場

建物概要

- 所在地：守口市東光町2丁目
- 建築主：守口市
- 設計者：株式会社昭和設計
- 用途：学校
- 敷地面積：16258.38㎡
- 建築面積：5551.85㎡
- 延べ面積：10251.88㎡
- 構造：鉄筋コンクリート造、木造 一部鉄骨造
- 階数：地上3階
- CASBEE 評価：A ランク／BEE 値 1.5
- 重点評価：CO₂ 削減 3.2／みどり・ヒートアイランド対策 3.5／建物の断熱性能 5.0／設備システム 2.8／自然エネルギー直接利用 3.0



【立地、周辺環境】

本敷地は京阪本線守口市駅から徒歩10分のところに位置し、3方に戸建て住宅が密集している。既存建物として小学校、幼稚園、交番、公民館、高齢者の交流施設があった敷地に、2校の小学校を統合する計画である。100年前からまちを見守るクスノキも保存し、設計を行う。

【総合的なコンセプト】

「学校全体を“木に包まれた”学びの場に」というコンセプトのもと、建物の内外を問わず、様々な場所に児童の居場所や活動が展開していく仕掛けや場をつくる。まちのシンボルとして愛されている3本の既存のクスノキを保存し、旧建物配置と同様の配置とすることで周辺環境の影響を最小限に抑える。密集する戸建住宅と同程度のボリュームに分節し、2階建てとすることで街に溶け込むにした。既存の小学校時代からつながりが深い近隣住民の方との協働の花壇や田畑をつくることで児童の教材を用いた学習だけでなく、地域の人との交流を通した学びのきっかけづくりを図り、地域の方にも親しまれる「みんなの学校」となることも目指した。

建物断面構成図



■ 芸術広場鳥瞰



■ 普通教室内観



■ メディアホール内観



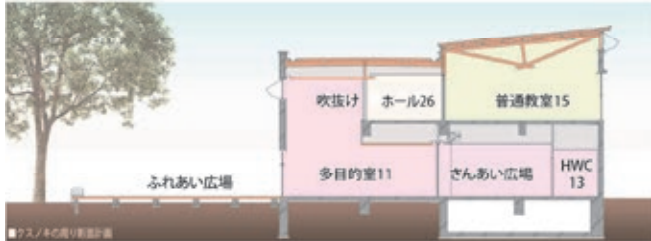
■ 音楽ホール内観



環境配慮事項とねらい

まち・歴史・自然と一体化した小学校

- ・3本のクスノキ、モミジ、さくらを保存し、まち・学校の記憶を継承する。
- ・間口全部を開放可能な建具とすることで内外一体を促し、屋外も含めた学校全体での活動を活発に行われることを目指す。
- ・黒板を設けた外の教室や高低差を活かした屋外舞台、土管やネット遊具などを計画することで様々な活動を誘発するしかけづくりを行う。



四季を感じる環境づくり

- ・将来は地域の方の日常動線として使われる”ふれあいの通りみち”には果樹を植え、授業での学びとともに地域の方が愛でて楽しむことができる。
- ・各季節で花が咲くように植栽を配置し、学校名でもあるさくらは12種類のサクラを植えることで春の2か月間と10月に咲くように計画する。
- ・2階は光庭や階段を各所に設け、自然を身近に生活可能なくりとする。
- ・運動場は大半を人工芝のグラウンドとし、砂塵の抑制や児童のけが防止を図る。



河津桜	3月上旬
歌留桜	3月中旬
井吉野、大島桜	3月下旬
山桜、緋桜、天の川	4月上旬
関山、曾賀堂、豊桜	4月中旬
花海棠	4月上旬
十月桜	10月下旬

地域に貢献し、地域と共に学び、地域と共に育つ学校

- ・児童と地域住民の協働し、緑の景観づくりを行う花壇やまちかどベンチなどの交流・憩いを生み出すしかけを各所に配置することで地域の方と児童の交流と地域一体となって作り上げる景観づくりの場をつくる。
- ・敷地北側には約280㎡のポケットパークを設け、待合せや休憩の場、北側の狭い道路に対して視線の確保、歩道の拡充に対しても配慮した。
- ・歩道が狭い東側道路に対して1.5m、主要道路である西側道路に対して0.75mずつ敷地内歩道を確保することで児童や地域の方の安全性を向上する。
- ・環境ボランティアの方に”もりぐち大根”などの育成方法を学び、便所掃除などの運営面からの学校を支えてもらい、地域に密着した学校づくりとする。
- ・設計期間中には地域の方、教職員の方と計8回のワークショップを行い、計画書のボランティア室の使われ方や配置などを議論し、より住民の方と先生方の意見を取り入れるとともに、気運の向上を計る。



環境配慮の見える化

- ・木質内装材によるCO2固定量の表示、屋根を支えるトラス材の腐材利用したサイン、太陽光発電による発電電力の見える化など各所で児童が環境やリサイクルに興味をもつきっかけを作ることによって児童の学びの循環に繋ぐ。

日常から非常時まで安全・安心を提供する場

- ・建物に組み込まれた交番は児童の登下校とともに地域の安全・安心を生む。
- ・受水槽・屋内運動場・キュービクルを想定浸水高さ以上の位置に配置する。
- ・災害時に避難場所として機能するためにかまどベンチ、防災倉庫、マンホールトイレなどの設備を配置する。

